

平和・公正・自由－世界の調和を目指して－



第4回世界平和連帯都市市長会議結果の概要

世界平和連帯都市市長会議事務局

1 開催趣旨

冷戦体制が崩壊し、国際社会は核軍縮に向け大きく動きだしているが、世界各地では地域紛争が多発するなど、未だに不安定な状況にある。

こうした中で、戦争の世紀であったともいわれる20世紀を総括し、包括的核実験禁止条約（CTBT）締結後の核兵器廃絶への取り組みや、飢餓、貧困、人権、環境問題など人類の平和を脅かす様々な問題を取り上げ、来るべき21世紀に向けた課題を幅広く論議し、世界恒久平和の実現に寄与することを目的に、第4回世界平和連帯都市市長会議を開催した。

2 開催期間及び会場

開催期間：平成9年8月4日（月）～同月9日（土）

会議会場：広島市・広島国際会議場

長崎市・ホテルニュー長崎

3 会議テーマ及びコーディネーター

基調テーマ：平和・公正・自由 ー世界の調和を目指してー

区 分	会 議 テ ー マ	コ ー デ ィ ネ ー タ ー
開 会 式	特別講演・演題： 「核兵器、歴史からの教訓、そして 人類の未来」	前スミソニアン協会国立航空 宇宙博物館館長 マーティン・ハーウィット
全体会議Ⅰ	20世紀の教訓と21世紀への課題 ー戦争の世紀から平和の世紀へー	国際基督教大学教授 最上 敏樹
全体会議Ⅱ	市民の力で核兵器のない世界を ー核廃絶と国際的連携ー	明治学院大学教授 武者小路 公秀
分科会Ⅰ	CTBT以後、核廃絶のために何を するか	国際基督教大学教授 最上 敏樹
分科会Ⅱ	科学技術の進歩と新しい社会システ ムの構築	アジア太平洋資料センター 代表 北沢 洋子
シンポ ジウム	21世紀に向けての平和の創造 ー核兵器廃絶を目指してー	NHK解説委員 堀内 敏宏
分科会Ⅲ	平和な社会を目指しての国際的連携	長崎大学熱帯医学研究所教授 溝田 勉
分科会Ⅳ	未来を担う青少年のための平和教育 と平和文化の創造	長崎総合科学大学教授 高橋 眞司
全体会議Ⅲ	多様な社会の調和を目指して(総括)	国際基督教大学教授 最上 敏樹

4 参加都市

国 外	3 2 か国	7 5 都市
国 内	1 か国	4 2 都市
合 計	3 3 か国	1 1 7 都市

5 会議日程

第1日目（8月4日）

登録・受付、理事会

第2日目（8月5日）

原爆死没者慰霊碑参拝・献花、広島平和記念資料館視察、開会式、総会、被爆者の証言、全体会議Ⅰ

第3日目（8月6日）

広島市平和記念式典参列、全体会議Ⅱ、分科会Ⅰ・Ⅱ、ピースキャンドル

第4日目（8月7日）

長崎市への移動

第5日目（8月8日）

開会式（長崎会議）、シンポジウム、被爆者との懇談、分科会Ⅲ・Ⅳ、アピール起草委員会

第6日目（8月9日）

長崎原爆資料館視察、長崎市平和祈念式典参列、全体会議Ⅲ、閉会式（ヒロシマ・ナガサキアピール）

6 総会での決定事項

役員都市を以下のとおり決定した。

会 長 広島市（日本）

副会長 長崎市（日本）

ベルリン市（ドイツ）

コモ市（イタリア）

ハノーバー市（ドイツ）

マラコフ市（フランス）

モンテンプルパ市（フィリピン）

ボルゴグラード市（ロシア）

ウォーロンゴング市（オーストラリア）

第 4 回 世界 平和 連帯 都市 市長 会議 国外 出席 都市

地 域	国 名	都 市 名	都 市 数
ア ジ ア	バングラデシュ	チッタゴン	1
	インド	チェンナイ、インパール、ムンバイ、トリヴァンドラム、マドゥライ	5
	インドネシア	セマラング	1
	イラン	デズフル、ハマダーン、ケルマーン、マシュハド、カスールシリン、コム	6
	カザフスタン	セミパラチンスク	1
	大韓民国	大邱	1
	マレーシア	クチン	1
	モンゴル	ダルハン	1
	フィリピン	モンテニルパ、バレンズエラ	2
	スリランカ	コロombo、ガール、ガンパハ、クリヤピティア、クルネガラ、ミヌワンゴダ、ヌワラエリア	7
	トルコ	ブルサ、マラトヤ	2
	ベトナム	ハイフォン、ハノイ、フエ	3
ア フ リ カ	カメルーン	ドゥアラ、ヤウンデ	2
	ケニア	モンバサ	1
	ルワンダ	キガリ	1
	南アフリカ	ダーバン（北）、ダーバン（南）、イースト・ロンドン、ポート・エリザベス、プレトリア	5
オセアニア	オーストラリア	ウォーロンゴング	1
	ミクロネシア連邦	コロニア	1
ヨ ー ロ ッ パ	ベルギー	ヘント	1
	フランス	アンジェ、オバーニュ、マラコフ、ナンテール、サン・ドニ、ヴィトリー・スール・セーヌ	6
	ドイツ	ベルリン、ハノーバー、キール	3
	ギリシャ	アギ・アナーギリ、ペリステリ	2
	イタリア	コモ、コリシコ、マルザボット、グリッツチャーナ・モランディ	4
	リトアニア	クライペダ	1
	ロシア	ボルゴグラード	1
	スロバキア	コシツェ	1
	スペイン	バルセロナ、ゲルニカ・ルモ	2
	イギリス	ブライトン、コベントリー	2
	ウクライナ	キエフ	1
北アメリカ	カナダ	バンクーバー	1
	メキシコ	エルモシーヨ	1
	アメリカ合衆国	チャールストン、フォート・コリンズ、ホノルル、ヒューストン、ミネアポリス、タコマパーク、ウェインズビル	7
合 計		32 か国 75 都市	

第 4 回 世界 平和 連 帯 都 市 市 長 会 議 国 内 出 席 都 市

国 名	都 道 府 県 名	都 市 名	都 市 数
日 本	北海道	札幌市	1
	山形県	山形市	1
	宮城県	仙台市	1
	福島県	郡山市	1
	千葉県	千葉市	1
	東京都	東京都、大田区、葛飾区、新宿区、千代田区、中野区、 八王子市、町田市	8
	神奈川県	横浜市、川崎市、相模原市	3
	愛知県	名古屋市	1
	長野県	長野市	1
	京都府	京都市	1
	大阪府	大阪市、堺市、豊中市	3
	兵庫県	神戸市、加古川市	2
	広島県	広島県、広島市、福山市、呉市、廿日市市、府中町	6
	香川県	高松市	1
	福岡県	福岡市、北九州市	2
	長崎県	長崎県、長崎市、佐世保市、島原市、平戸市、松浦市	6
沖縄県	那覇市、沖縄市、北中城村	3	
出 席 都 市 数		4 2 都 市	

ヒロシマ・ナガサキアピール

20世紀は世界大戦の世紀であり、数多くの市民を巻き込む残虐な時代であった。特に第2次世界大戦では広島と長崎に人類史上初めて原子爆弾が投下され、ヨーロッパでもアジアでも非戦闘員に対する集団殺害が行われるなど、人間の行為の恐ろしさが浮き彫りにされた。

今世紀後半には先進国と途上国の経済的格差が一気に拡大した。その結果、途上国の貧困は極度に進み、貧困や紛争などに起因する飢餓や疾病が広がり、難民が増加し、人権が抑圧され、児童や女性に対する迫害が続発するなど、平和を脅かす諸要因が世界各地で深刻化した。さらに、地球の温暖化、オゾン層の破壊、廃棄物の急速な増加、海洋汚染、砂漠化現象など、地球は、核兵器の脅威と相まって有史以来の環境的危機に直面することになった。

また、今世紀は科学技術が飛躍的に進歩し、経済、産業、情報・通信、交通などの水準は画期的な変化を遂げた。反面、ほとんどの国家は国際協調よりも国益を優先したり、人間を忘れた経済中心の傾向を強めたりし、それが人間の生活をさまざまな形で脅かし始めている。

このような状況のもと、われわれ世界33か国117都市の代表は、広島・長崎両市で開催された第4回世界平和連帯都市市長会議に参加し、基調テーマである「平和・公正・自由—世界の調和を目指して—」に沿って討議を重ねた。

その結果、われわれは、今世紀の歴史が示す教訓に学ぶことを通して、われわれを包む混迷と不安を解決できると確信した。そのために、人権と人道を高く掲げることによって市民社会の力をより一層高めるとともに、都市の国際的連帯を通して市民相互の絆を固める決意を表明する。同時に、各都市は国家の壁を超え、人種、性、年齢の違いを超えて、21世紀を「平和の世紀」とするため、次のことを確認した。

1. 核兵器など大量破壊兵器の廃絶及び通常兵器の大幅削減へ向けて国際世論をより一層高める。
2. 次の世代を担う青少年に「平和を愛し、人々と連帯する心」を広めるため、各都市は教育を通じて、平和文化の創造に努める。
3. 貧困、差別、暴力、環境破壊など都市共通の諸問題を解決するため

に各都市は多面的に協力し合う。

さらに、市長会議の総意として、次のことを各国政府及び国際機関に要求する。

1. 核兵器の廃絶に向けて、包括的核実験禁止条約（C T B T）の早期発効と兵器用核物質生産禁止（カット・オフ）条約交渉の早期開始を求めるとともに、次の三項目を実現すること。
 - (1) 核兵器禁止国際条約の締結
 - (2) 臨界前核実験の即時全面中止
 - (3) 非核兵器地帯の地球規模への拡大
2. 核兵器の削減・解体、及び原子力の非軍事的利用から生じる核廃棄物の処理にあたっては、その安全性に万全の考慮を払うこと。
3. 生物・化学兵器を禁止する条約の遵守に加えて、対人地雷の生産と移転を全面的に禁止する実効性のある条約を締結するとともに、その除去のための国際協力体制を整備すること。
4. 兵器の削減などにより軍事費を縮小し、それによりもたらされる膨大な資金を「平和の配当」として環境保護や貧困の解消などに効果的に活用し、あわせて産業構造の軍民転換を図ること。
5. 軍縮に関わる諸問題の総決算として、1996年に国連総会で決議された第4回国連軍縮特別総会（S S D IV）の開催を今世紀中に実現すること。

以上の点を決議し、われわれは1997年の広島及び長崎の平和宣言を強く支持する。また、各都市の政治、文化、宗教などの多様性を認識したうえで連帯し、戦争の恐怖に脅えることなく、市民が平等に豊かさを享受し、基本的人権を保障される社会の実現を目指して、ともに努力することを誓う。

1997年8月9日

第4回世界平和連帯都市市長会議